

「スポーツセンター耐震診断の結果と今後のあり方」

様似町スポーツセンターは昭和47年（1972年）に建設。

アリーナ開放による室内のスポーツ活動により、さまざまな年代の方が利用している町内のスポーツの拠点施設である一方で、築50年を越え、経年劣化による老朽化が進行している。施設の今後のあり方として、現状のまま使用、改修、改築、除却が想定される中、建物の現状を調査する必要であるとして、耐震診断を実施した。

【6月13日 全員協議会】

耐震診断結果報告。出席委員の大方から即時閉館の意向が示された。

【6月23日 全員協議会】

前回の意見を踏まえて、教育委員会から説明。「スポーツセンターを急に閉館するとかなりの影響があり、利用団体の意見を聞く中で進めたい。」

全員協議会は、即時閉館8名、利用しながら修繕2名。スポーツセンターの使用中止について提言書を町に提出を決定。

【7月5日】

様似町議会より町長へ「様似町スポーツセンターに関する提言書」提出。

【8月4日】

「広報さまに8月号の特集にてスポーツセンターの耐震診断結果」掲載。

【8月23日 社会・文教常任委員会】

スポーツセンター耐震診断結果に伴う使用中止提言後の状況について教育委員会より報告。各利用団体等への耐震診断の結果報告と意見聴取の状況の報告。

町長より、「今後の方向性等を様似町議会全員協議会にて報告させていただきたい」という提案。

【9月14日 全員協議会】

8月23日開催の社会・文教常任委員会と同様に、議会の使用提言後の状況について報告。今後のスポーツセンターの施設整備について、3つの案が示され、町としては現施設を耐震化して大規模改修を提案。

閉館については、8名の議員が安全性が第一であり即時閉館、2名の議員が開放しながら耐震化あるいは建替えを早急にしてほしいとの意向。議会としては、提言書を取り下げることはできないとの結果である。

【10月20日 全員協議会】

9月14日の全員協議会に提出された比較検討資料の説明を改めて行った後、各委員の建替え案に関する意向が出された。

（C案について 5名）

・もっとコンパクトな施設でいいのではないかと。

・スポーツだけをやる施設は時代に合っていないのか。命が大事。避難施設としても使用できる高台移転は有効。

・高台移転は消防庁舎とも連携できる施設になるのでは。

・利用者減を考えると、デマンド交通などの実現で解消できるのではないかと。

・命を守るために一時的に逃げる避難タワーより、逃げ切った後に拠点となる施設が望ましい。防災センターの中に体育館が出来れば将来的に価値がある。

（判断材料が不足、明言できない5名）

・3案はわかりやすいが、これだけでは判断できない。場所や大きさについても検討が必要。

・防災、財政の視点からも考えなければいけない問題。庁舎内の方針を示す必要がある。

※「スポーツセンター施設整備 比較検討資料」

A案 現施設を耐震化して大規模改修する場合

予算（概算）工事費7億2,000万円。補助3,000万円。

起債 6億9,000万円。その他の経費（設計費・工事管理費）3,800万円。

B案 現在の場所に改築する場合

予算（概算）工事費13億円。補助1億2,000万円。起債11億8,000万円。その他の経費（設計費・工事管理費）7,800万円。

C案 高台に移転改築する場合（想定 観音山スポーツ公園）

予算（概算）工事費13億5,000万円。補助1億2,000万円。起債12億3,000万円。その他の経費（設計費・工事管理費）7,800万円。地質調査費600万円。

【12月8日 全員協議会】

資料「北海道内5,000人以下の市町村における体育施設の状況について」

※スポーツセンターが利用できない期間がある場合、どのように利用調整をするかシミュレーションした資料

資料 代案1「スポーツセンター利用団体 施設移動調整（第2体育館、様似中学校、様似小学校）」

編集後記

季節ごとに巡ってくる流星群。様似町は空気が澄んでいて普段でも流れ星がよく見られます。冬の流星群と言えば、ふたご座流星群で、この冬は当たり年のようです。天候に恵まれればかなり沢山流れそうです。冬空の代表選手は、オリオン座です。オリオン座は冬に日没と共に東の空に上ってきます。オリオンは神話では自慢の狩人ですが自慢が過ぎて女神にサンリで懲らしめられ、今でもサソリ座が上がってくるとそそくさと西に沈んでしまいます。

皆さんも暖かくして、ほんのいつとときの天体ショーを楽しんでみませんか。



（明賀）

議会広報常任委員会

- 委員長 水野 洋一
- 副委員長 佐々木 敏
- 委員 橋爪 伸 恵
- 委員 明賀 孝 子
- 委員 砂子澤 富美子